

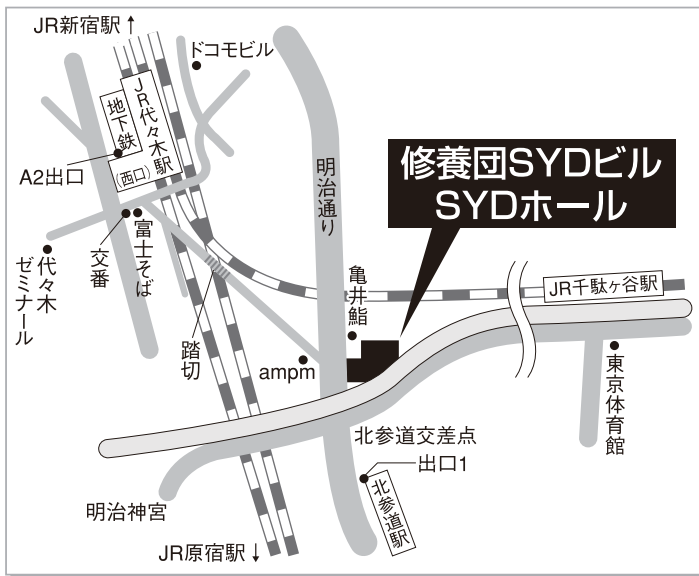
会場案内

会場 SYDビル SYDホール

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2
TEL 03-3405-5555

- JR山手線・総武線「代々木駅」西口より徒歩5分
- 都営地下鉄大江戸線「代々木駅」A2出口より徒歩6分
- 東京メトロ副都心線「北参道駅」出口1より徒歩3分
- JR総武線「千駄ヶ谷駅」より徒歩7分

※ホールには駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
車でお越しになる場合は首都高速高架下の時間貸有料駐車場(千駄ヶ谷パーキング)をご利用ください。



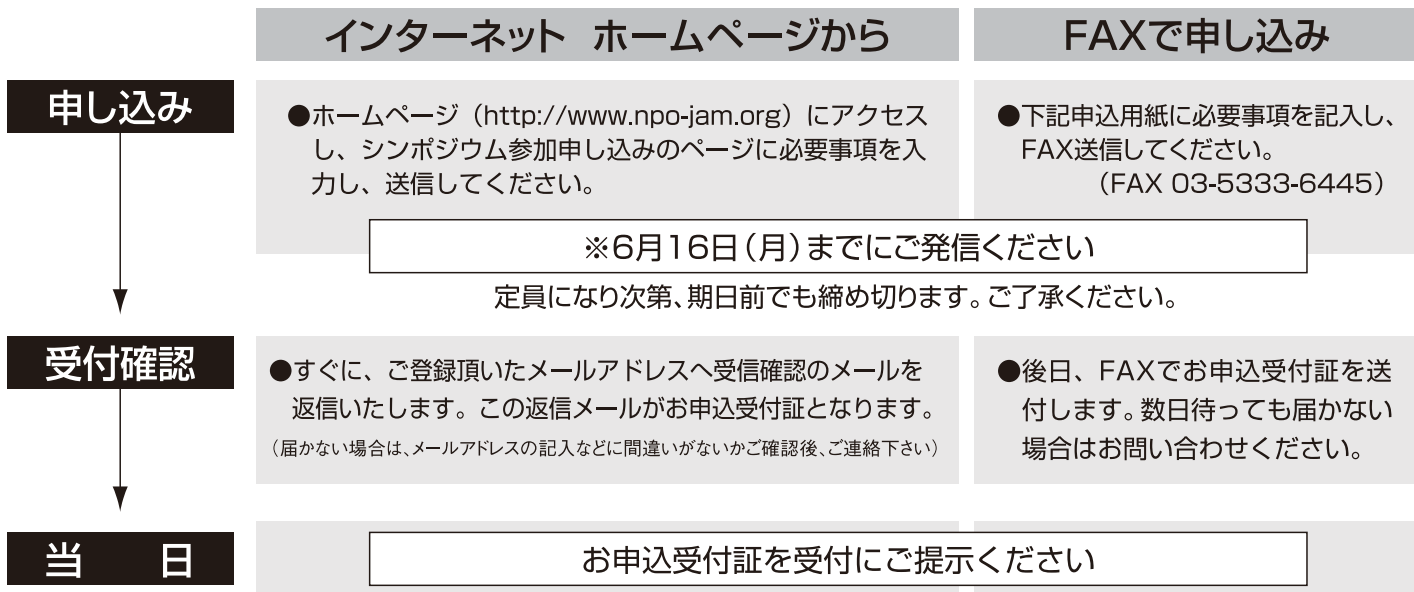
お問い合わせ・参加申込先

NPO法人 メンタルケア協議会 事務局

〒151-0053 渋谷区代々木1-57-4 ドルミ第2代々木 2F
TEL03-5333-6446 FAX03-5333-6445 net@npo-jam.org http://www.npo-jam.org

参加申込方法

事前登録 可能であればインターネットでお申し込み下さい。



当日受付 事前受付登録者が優先となります。
参加人数によって、ご入場・ご着席できない場合があります。ご了承ください。

FAX申し込み用紙 [FAX 03-5333-6445] ※申し込みはお一人様ずつお願いいたします。 FAX送信方向 ↑

ふりがな 氏名	勤務先名
	職種
住所 〒	TEL
<input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> 自宅	FAX
	e-mail
メンタルケア協議会 …… <input type="checkbox"/> 会員 ・ <input type="checkbox"/> 非会員	(シンポジウム参加費：会員無料/非会員2,000円) 懇親会参加費：会員・非会員とも2,000円
懇親会に参加 …… <input type="checkbox"/> する ・ <input type="checkbox"/> しない	
メンタルケア協議会シンポジウムに参加するのは …… <input type="checkbox"/> 初めて ・ 回目	

大 事例検討会へのお誘い

NPOメンタルケア協議会 第15回シンポジウム

～3つの自殺企図事例から考える～

地域の中に、精神保健医療福祉の課題が山積しています。昔からあるが手がついていない課題、社会の変化の中で新たに浮かび上がってきた課題、どれも切実です。

「精神保健福祉法第41条による指針」や、都道府県の「精神疾患の医療計画」の中で、これらの課題は明確には記載されておらず、対策もあいまいです。

どのように取り組んで行けばよいのか、3つの深刻な事例を検討することで、知恵を絞ってみたいと思います。

- 事例1 孤立した統合失調症
- 事例2 虐待を受けて育った摂食障害・薬物乱用
- 事例3 退職に追い込まれた発達障害

地域に山積している課題

- ◆ 短期間で退院となり、すぐに再入院する人が増えている。しかし、退院後3ヶ月未満だと受け入れ先病院を見つけにくく“医療難民”状態になることがある。
- ◆ 通院はしているが、社会参加していない人が推計40万人。通所施設を中断した人が多く、その後は家族だけが支え、社会的支援を受けていない。
- ◆ リストカット、過量服薬、脱法薬物、アディクション、虐待、DV、いじめ、ストーカーが最近の10年間で著しく増加した。
- ◆ 発達障害の有病率が増加し続けている。ADHDだけでも2.5%。就学支援や就労支援を飛躍的に強化する必要がある。(統合失調症の生涯有病率は0.85%)。
- ◆ 「メンタルヘルス」で退職した人の過去3年間の復職率の平均値は51.9%。復帰出来る人は二人に一人。退職率は「がん」について高い。
- ◆ 一人暮らし世帯が3割を超えている。一人暮らしの人が精神疾患を患うと、一人暮らしでない人に比べて不安定で、自殺率が3倍以上である。

日時 2014年6月22日(日)

場所 SYDホール ●東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2
●JR代々木駅 西口より徒歩5分

第13回定期総会…12:00～12:30
懇親会 ……18:15～20:00
シンポジウム 13:00～18:00

定員 250名(車椅子席をご用意できます)
参加費 会員：無料 非会員：懇親会2,000円 当日3,000円 懇親会 会員・非会員ともに 事前2,000円 当日3,000円

Program NPOメンタルケア協議会 第15回 Symposium

12:00～12:30 NPOメンタルケア協議会 第13回定期総会

12:30～ NPOメンタルケア協議会 第15回シンポジウム

座長：	松本 俊彦	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター副センター長
	西村 由紀	メンタルケア協議会理事
論者：	西脇健三郎	医療法人志仁会 西脇病院 理事長・院長
	伊波真理雄	医療法人社団ヒブノシス 雷門メンタルクリニック 院長
	原子 英樹	NPO法人多摩在宅支援センター円 訪問看護ステーション元事業所長・TACTチーム所長
	徳山 尚子	東京都精神障害者家族会連合会（東京つくし会）理事
	羽藤 邦利	メンタルケア協議会理事長・代々木の森診療所理事長
指定発言：	森川すいめい	陽和病院地域支援室精神科医

12:30～ 受付開始

13:00～ 開会挨拶：羽藤 邦利 メンタルケア協議会理事長・代々木の森診療所理事長

13:10～13:40 課題提示「精神病院から、今の課題を語る」

西脇健三郎 西脇病院 理事長・院長

13:40～14:40 事例検討① 孤立した統合失調症

《休憩10分間》

14:50～16:00 事例検討② 虐待を受けて育った摂食障害・薬物乱用

《休憩10分間》

16:10～17:20 事例検討③ 退職に追い込まれた発達障害

17:20～17:50 総合討論

17:50～ 閉会挨拶：西村 隆夫 メンタルケア協議会理事・にしむらクリニック院長

18:15～ 懇親会〔SYDホール ホワイエ〕

Profile

松本 俊彦 まつもと・としひこ（精神科医）

独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター副センター長。佐賀医科大学医学部卒業後、神奈川県立精神医療センター、横浜市立大学医学部附属病院精神科、国立精神・神経センター精神保健研究所司法精神医学研究部などを経て、H19より同研究所自殺予防総合対策センター自殺実態分析室長、H20より薬物依存研究部室長を併任、H22より現職。日本アルコール精神医学会理事、日本青年期精神療学会理事など。

西村 由紀 にしむら・ゆき（精神保健福祉士）

メンタルケア協議会理事。メンタルケア協議会の法人設立を手伝い、東京都精神科救急医療情報センター、東京夜間こころの電話相談、東京都自殺相談ダイヤルの立ち上げに携わる。

西脇 健三郎 にしわき・けんざぶろう（精神科医）

大阪医科大学卒。長崎大学医学部精神科医局、長崎県立東浦病院医長を経てS57医療法人志仁会 西脇病院 理事長／院長 就任、現在に至る。長崎純心大学院臨床心理非常勤講師、日本アルコール関連問題学会理事、九州集団療法研究会理事、特定非営利活動法人ちゅーりっぷ会長崎ダルク事務局長、全日本断酒連盟顧問、全国薬物依存症者家族連合会顧問など兼任。

伊波 真理雄 いなみ・まりお（精神科医）

雷門メンタルクリニック院長。1962（昭和37）年沖繩生まれ。琉球大学医学部卒業後、同附属病院精神神経科、糸満晴明病院にて勤務。1994（平成6）年薬物依存症回復施設のダルクを支援するため上京し、都内の精神病院勤務を経た後、2000（平成12）年雷門メンタルクリニックを開業。さまざまな依存症／思春期・青年期問題の専門相談を都内の公的機関で継続している他、山谷マック・東京ダルク・寿アルクなどの回復施設の運営に協力している。都立精神保健福祉センターの薬物依存家族教育プログラム担当。

原子 英樹 はらこ・ひでき（看護師・精神保健福祉士）

NPO法人多摩在宅支援センター円 訪問看護ステーション元事業所長・TACTチーム所長。H19年4月より千葉県市川市で、国立精神・神経センターACT-Jプロジェクト臨床チーム、日本でのACTプログラム研究事業を行う。H20年4月、訪問看護ステーションACT-J立ち上げ。H23年1月より現職。

徳山 尚子 とくやま・なおこ（精神保健福祉士・介護支援専門員）

東京都精神障害者家族会連合会（東京つくし会）理事／中央区精神障害者家族会（中央区つくし会）相談員／中央区精神障害者グループホーム／ホームつつじ・サービス管理責任者／中央区精神障害者地域活動支援センター「ポケット中央」相談員特定非営利活動法人つつじ理事／中央区自立支援協議会委員。2000年に中央区の精神障害者家族会に入会、以降、精神障害者、家族とともに地域の精神障害者の社会資源の充実に向けて活動中。

羽藤 邦利 はとう・くにとし（精神科医）

メンタルケア協議会理事長／代々木の森診療所理事長。京都大学医学部卒業。東京大学付属病院、富士病院、東京都立松沢病院、法務省八王子医療刑務所を経て、S58代々木の森診療所開設、現在理事長。その他、日本精神衛生会理事、日本精神神経学会理事、東京精神神経科診療所協会理事などを兼務。

森川 すいめい もりかわ・すいめい（精神科医・鍼灸師）

陽和病院地域支援室精神科医。精神科医師。鍼灸師。独立行政法人国立病院機構・久里浜アルコールセンターに勤務し依存症患者等と向き合いつつ、埼玉の病院で緩和医療を学んだ。H15ホームレス支援のためのNGO「TENOHASI」を立ち上げ（その後H20にNPO法人化）、代表として東京・池袋で炊き出しや医療相談などを行う。H21世界の医療団東京プロジェクト代表、H26世界の医療団理事就任。他にアジアやアフリカを中心に約40カ国バックパッカーをしてまわる。著書に「漂流老人ホームレス社会（朝日新聞出版、2013）」。

事例① 孤立した統合失調症 … 〈51歳男性〉

●26歳時に電波が体に侵入するという体感幻覚と「死ぬ」という幻聴が出現。それまでは大手機械メーカーの技術者として働いていたが退職。1年間の入院の後、入退院を繰り返しながら両親、弟と同居してひきこもり生活。

●7年前糖尿病を発症。その頃よりイライラがひどくなり、暴力をふるうようになる。

●1年前、父親に暴力をふるって怪我を負わせ措置入院となり、3か月で退院。退院時に両親と弟から引き取りを拒否され、世帯分離して一人暮らしになる。

●退院直後から孤立した生活。福祉事務所のケースワーカーや病院に頻回に電話をかけ、距離を置かれるようになる。病院のケースワーカーから通所施設、デイケア等を勧めても、本人は見学をただけで利用を拒否。糖尿病が悪化し、体調不良を訴え、将来への不安が大きくなる。

●4週間前、包丁で腹を切って自殺未遂し、措置入院となる。3週間で退院になる。退院直後から病院へ頻回に電話をかけて入院したいと希望。病院は、依存的になるので入院は適応外と断る。

●本日、また包丁で腹を切り自ら警察に助けを求め、再度措置入院となる。

【問題】親の高齢化、独居精神障害者の生活支援、短期で退院、通所サービスの拒否、地域生活支援のキーパーソン不在

事例② 虐待を受けて育った摂食障害・薬物乱用 … 〈32歳女性〉

●中学1年生の時に親が離婚し母子家庭となる。

●2年後に母親が再婚。その頃から不登校、摂食障害となる。当時、義父から暴力を日常的に受けていたらしい。

●高校進学するも、3年時に中退。キャバクラで働きはじめ、お店で知り合った男性と同棲。

●25歳の時、同棲相手が覚せい剤使用で逮捕。本人も薬物所持で検挙され、精神科病院で薬物依存の治療を受ける。

●退院後は近所の精神科クリニックに間欠的受診。キャバクラの仕事に戻るが、周囲と馴染めず、転々と店を変える。

●1年前（31歳）から男性と同棲していたが、次第に同棲相手から金銭の搾取や暴力を受けるようになる。半年前、本人の稼ぎが減ったことから男性が帰ってこなくなった。その後、過食嘔吐がひどくなり、眠れないから処方を増やしてくれと主治医に訴えていた。

●3日前、夜の海に入っていくところを通りかかりの人に助けられ、救急搬送される。体重28kg、多数のリストカットの痕、安定剤の過量服薬と多量の飲酒が認められた。

●本日、精神科転院が必要と思われるも受け入れ先が見つけれず、本人も拒否したため、通院先への紹介状を持たされて退院。家族とは連絡が取れず。

【問題】家庭問題、虐待、DV、薬物、摂食障害、リストカット、過量服薬

事例③ 退職に追い込まれた発達障害 … 〈35歳男性〉

●小学から高校まで学業成績優秀だったが、こだわると引かなくてクラスメートと激しく対立したエピソードがあった。

●大学法学部を卒業し、大手企業の総合職に就職。一人暮らしで、友人はいない。両親や兄弟とも仲が良いとは言えず、減多に実家へは帰らない。

●5年前、中間管理職に抜擢され新しい事業の責任者となるが、部下の管理がうまくいかないことをきっかけに、うつ状態となって休職を4回繰り返した。

●1年前にリワーク支援を利用して復職したが、すぐに部署内で部下と軋轢、取引先ともトラブル。再びうつ状態が強まり、欠勤がちになり、間もなく休職期間が上限に達したため退職となる。

●退職後、ハローワークや職業センターなどを利用して再就職を目指していたがうまくいかず、貯金が底をつき、家賃を滞納してマンションの立ち退きを迫られる。

●本日、ハローワークで生活保護を受けるように言われて福祉事務所にし出向いたが、対応した職員の態度に腹を立てて帰ってしまう。

●夜になって、公園で首をつろうとしたが怖くなり、警察に駆け込んで自ら保護される。

【問題】発達障害、リワーク、生活の行き詰り、孤立